

## 第15回最上小国川流域環境保全協議会の開催概要について

標記の環境保全協議会について下記のとおり開催しました。

第15回環境保全協議会では、「工事の進捗状況についての報告」「前回までの協議会における指導事項と対応」「重要種調査結果」「平成28年度環境影響調査の報告」「来年度の施工予定」および「今後の環境調査」について詳細を説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。

### 記

- 1 日 時 平成29年3月10日（金） 13:30～15:30
- 2 場 所 最上総合支庁5階講堂
- 3 出席者 12名（1名欠席）

原慶明委員長、伊藤清紀委員、伊藤武美委員（沼澤辰成代理）、今井正委員、梅田信委員、大澤康浩委員、笠原裕委員、菊池義明委員、高橋光明委員（信夫栄代理）、中嶋寿幸委員（高橋憲輔代理）、横倉明委員、柳原敦委員

### 4 審議の結果

各委員からの主な御意見（要旨）

- ・梅田委員 【濁度観測】  
・本調査では1年を通じた濁度の変化が把握できており、今後も濁度の通年観測を継続してほしい。  
【河床状態調査】  
・ダム建設後の変化が着目点であるため、ダム建設後も毎年で無くても良いので調査を実施してほしい。
- ・今井委員 【猛禽類調査】  
・本事業が、周辺に生息する希少猛禽類に影響を及ぼしているとは考えにくい。  
・湛水域範囲内で確認されているサシバとハイタカの営巣木について、今後もモニタリングを継続してほしい。  
【ヤマセミ調査】  
・本事業が、ダム周辺に生息するヤマセミに影響を及ぼしているとは考えにくい。
- ・横倉委員 【イチゴナミシヤク調査】  
・イチゴナミシヤクはもともと生息数が少なく、生態も不明であるため、今後も調査を継続してほしい。  
【底生動物調査】  
・ヒメサナエは県内で数箇所しか確認が無い貴重な種であり、清流性種なので水質は良いと評価できる。
- ・原委員長 【ナガミノツルケマン調査】  
・試験播種した箇所では開花・結実が確認されており、移植作業が成功したと評価できる。追加播種地を含めて今後も調査を継続してほしい。  
【付着藻類調査】  
・魚類の定量調査は難しいので、はみ跡や付着藻類量から間接的に評価する方法が有効であり、今後も調査を継続してほしい。
- ・笠原委員 【魚介類調査】【底生動物調査】  
・2年の結果では種構成の変化を結論づけにくいいため、調査を継続してほしい。
- ・信夫代理 【濁度観測】  
・毎月1回濁水処理プラントの確認をしており、処理は適正にされている。ダム工事による濁りの影響は無いと考えられる。
- ・柳原委員 【河床状態調査】  
・流水型ダムなのでダム下流の河床材料への影響はあまり問題無いだろう。

### 【開催概況】

